

## Profile-

2008年,東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士(学術)。京都大学高等教育研究開発推進センター特定助教,京都大学白眉センター特定准教授などを経て,2020年より現職。専門は教育心理学・発達心理学・行動遺伝学。著書に『脳の発達科学(発達科学ハンドブック8)』(分担執筆,新曜社)など。

2017年9月から2019年8月までの2年間, 学内から多大なるご支援を賜り, University College London (UCL) にて在外研究を行う機会をいただきました。

こういった文章で原稿を始めて みましたが、その2年間が夢か現 か分からなくなるほどの異常事態 です。そのような時期にあって、 遥か遠く1万km離れた場所での 出来事を振り返らんとすることに 奇妙さと滑稽さすら覚えます。

UCLのキャンパスは観光地の ど真ん中にあります。ロンドンの 住宅事情は東京以上に厳しく、街 中のキャンパスで訪問研究員が利 用可能なオフィスは4人部屋でし た。部屋といっても、個人の専有 面積は2~3㎡程度で、今なら確 実に密だと言われてしまうほどの 狭さです。しかし、院生・ポスド クたちと短期間で仲良くなるため にはその程度の密が好都合であっ たようにも思います。

UCL心理学部棟の南東隣の区 画はラッセル・スクエアです。人 の出は多いのですが、とても落ち

## 遥かなるロンドン

京都大学大学院教育学研究科 准教授

## 高橋雄介 (たかはし ゆうすけ)

着いた空間で、ひとりで静かに論 文を読むのに適した場所でした。 ラッセル・スクエアは、現代版 『シャーロック』で、ワトソンが ホームズを紹介してくれた友人と 会う公園のロケ地でもあります。 ここに人が多いのは、その南西隣 の区画に大英博物館があるからか もしれません。密な蛸壺で少し息 が詰まったと感じた時に徒歩5分 で大英博物館の裏門まで到達し、 広大なる無料の空間を自由に散策 できたことは正に幸運でした。

2年もの長きにわたって私の受 け入れ先となって下さった2名の 研究者は、フランス人の男性研究 者IBとフィンランド人の女性研 究者Essiです(在外中通り,お二 人とも下のお名前と愛称で呼ばせ ていただきます)。IBはいい意味 で私の何らかの観念を壊してくれ ました。週末のある日.目が充血 している彼がいました。どうした のかと尋ねると、論文のことで考 え事をしていたとのこと。それを 勤勉と呼ぶのかどうかはさてお き. 彼はとてつもなく勤勉な人物 なのです。Essiは仕事が速く確実 で、早口です。そして、議論が白 熱してくるとその早口は加速し. 口が悪くなります。若干引いてい る私に気が付いた彼女は「私の母 はもっと口が悪いの。これは母親 譲り。母ほどではないからそんな にびっくりしないで」と意味不明 な説明をしてくれました。

テムズ川を渡って南側にある King's College London(KCL)に も週に一度だけ通い、比較的オー プンなセミナーに参加させても らっていました。そのような縁もあり、KCLの研究者たちとはその後共に研究費を獲得し、2019年の春と秋の2度、その共同研究促進のため、在ロンドンの研究者10名以上に来日していただく機会を設けることができました。

今はこのような情勢ですので. UCL・KCL でお世話になった方々 とはオンラインのコミュニケー ションツールのみでのやり取りを 余儀なくされています。これだけ 高度に情報化された現代社会です ので、日本のオフィスにいながら にして有意義な国際共同研究を遂 行することは可能なのだと思いま す。むしろ、一定の期間、生活の 拠点をまるごと国外へと移すよう なことは余計な手間がかかるだけ なのかもしれません。しかし、そ ういった実利的なことだけでは語 ることのできない側面もありま す。私が扱うデータは数字と文字 のみで構成される無機質なもので す。それらがどのような文化的背 景をもって取得されるに至ってい るのかを理解しようとすることが 大切です。それによって, 眼前の データは血の通ったものとなり、 分析は単なる数字遊びではなくな り、よりよい考察を描き出すこと が可能になるように思います。こ れこそが上記のような面倒をして でも余りあるだけの利益です。

セミナーの後に冷たいサンド イッチを摘まみながら交流し、夕 刻になればパブでビールを片手に 対話を続けることのできる当たり 前すぎた日常が一日でも早く戻る ことを願ってやみません。